

# 自ら考え工夫し実践できる力をはぐくむ農業科目の指導の工夫

## — 科目「作物」に理論と実践を結び付けた言語活動を取り入れて —

農業班 糸井 秋雄（高等学校教諭）

### 1 主題設定の理由

#### 【農業科で必要とされる能力】

作業の理論と技能をただ学ぶだけでなく、作物栽培の知識・技術について、実感を持ち、幅広く発展的、応用的なものごとがとらえられる力。

すなわち「自ら考え工夫し実践できる力」をはぐくむ必要がある

#### そこで！

理論と実践を有機的に結び付けるよう工夫した言語活動を取り入れた授業を構築し、実践する。

### 2 実践の概要

単元「イネの栽培」	見通し1	見通し2	見通し3
学習内容	収穫・調整	生育診断	稲作経営と流通
言語活動の状況 (グループワーク)	体験・報告レポートを活用した話し合い	課題解決を中心とした話し合い	発展テーマに関するディスカッションやディベート
検証の観点	知識と技術が実感を伴った形で習得できたか	自ら考え工夫する力を高めることができたか	発展的、実践的な力を身に付けることができたか

#### 体験・報告レポート

実施月日	月	日( )	No.	氏名
実施項目   収穫と調整①				
<input type="checkbox"/> 説明を記入する。 <input type="checkbox"/> 収穫時期の判断 <input type="checkbox"/> 穂軸の先端から約2/3まで黄化し基部には緑色が残っている状態 <input type="checkbox"/> 刈り取りが早い・茎葉熟粒や青米が多くなる。 <input type="checkbox"/> 遅い・割割れ米や青米が増える。 <input type="checkbox"/> 稈粒や倒伏による損失。 <input type="checkbox"/> 茎葉熟が適ほど粒重は増加する。 <input type="checkbox"/> 米目安は出穂から40~50日。				
<input type="checkbox"/> 実習で気付いた点を記入する。 <input type="checkbox"/> 説明を記入する。				
2 収穫方法				
・コンバイン・バインダ・手刈りとあるが作付け面積の約90%はコンバイン。 ・コンバインは刈り取りと同時に脱穀を行う。また、おらを結束したり、切断散布する装置もある。				
<input type="checkbox"/> と <input type="checkbox"/> をふまえての感想				

【知識と技術の循環】



- ・機械化が良い。理由は全ての作業で作業時間が短縮でき人手がかからない。また、乾燥についても天候を気にせずに作業ができるため、計画的な販売が行える。
- ・機械化のメリットは大きいですが、環境面や米の味のことを考えると機械化には賛成できない。機械を使用しないことでブランド米として販売ができる。

※下線部は教員側が情報を与えていない事例

ディベートでの記述より

### 3 成果と課題

#### 【体験レポート+言語活動】

- ◆作業と理論学習を有機的に結び付けることができた。
- ※作業中の体験レポートの確認とその後の交流により実感を伴わせることができた。

#### 【課題解決場面+言語活動】

- ◆グループワークでの議論により、生育診断の学習場面で工夫が見られた。
- ※課題解決場面においてグループワークを活用することで、自ら進んで考えを出し内容をより充実させることができた。

#### 【ディスカッション・ディベート+言語活動】

- ◆稲作の機械化についてのディベートにて、その活動の中から発展性が見て取れた。
- ◆農産物の販売方法についてのディスカッションにて実践的な意見が見られた。
- ※より応用的なグループワークを実施することで、学習に発展的かつ実践的に取り組む力を身に付けることができた。

基盤となる実感を伴った学習内容等

課題：授業のテーマによっては今回構築した内容では活用しきれない部分もある。今後はさまざまなテーマに対応できる基本的な指導計画の確立が求められる。